

グループ	特別ニーズ教育	担当教員	伊藤修毅、竹脇真悟、中嶋理香、坂野愛実
テーマ	子どもの可能性を信じ、誰一人取り残さない教育を考える		
ゼミナール概要			
キーワード：特別支援教育 教育と福祉の協働 特別な教育的ニーズ 教育システム			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>「特別ニーズ教育」という言葉の示す範囲は、「特別支援教育の対象」とされる10種類の「障害」をもつ子どもたちだけではなく、「障害以外の特別な教育的ニーズ」をもつ子どもたちも含まれるという点は、おおむね、共通した理解となっています。また、「子どもたち」と書きましたが、場合によっては18歳以降の成人を含むこともあります。そして、「教育」という言葉も「学校教育」のみを指すのではなく、学校以外の様々な場（児童福祉や障害者福祉の事業所、少年院や医療機関など）を含むこともあります。</p> <p>日本の教育が抱えている、不登校児、被虐待児、学業不振児、愛着障害児、外国籍の子どもの問題や、青年期での引きこもり、自殺念慮、フリーターやニート、非行や触法障害者の問題など、子どもや青年の抱える様々な問題を広くとらえ、子どもや青年の全面的な発達を追求するためにどのような教育システムが必要なのかを考えることでもあります。その中の一つとして障害をもつ子どもたちに対する教育をどのように行っていくのかも含まれ、特別支援教育だけでなく通常の教育システムも含めどのように改善が必要なのかを探究する分野です。つまり、「通常の学校教育」の枠組みでは十分に発達を保障することが困難なあらゆる人たちに対する、様々な教育・支援が「特別ニーズ教育」という言葉に込められているのです。</p> <p>このグループは、便宜上、障害児教育クラス（担当：伊藤・竹脇）と多様なニーズクラス（担当：中嶋・坂野）に分かれますが、3年生前期の間は、グループ全体で同じ内容の活動を行います。具体的には、ディベート、各担当教員の専門分野に関わる学習、フィールドワーク（例、特別支援学校の見学）を想定しています。この期間は、「特別ニーズ教育」の様々な領域について、視野を広げていくことを大切にしていきたいと思います。</p> <p>そして、前期末に、改めてゼミ選択を行い、3年後期以降は、4つのゼミに分かれて、興味・関心をもった分野について、深く探究していきます。3年次末の「卒業研究構想発表会」、4年前期末の「卒業研究中間報告会」、4年次末の「卒業研究発表会」は、合同で行い、グループ全体で共有します。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>○伊藤修毅:障害のある子ども・若者の困難は、障害そのものに原因があるだけではなく、さまざまな「社会的な背景」があります。その「社会的な背景」を考えることなしに、障害のある子ども・若者の支援を考えることはできません。教育だけではなく、福祉や労働なども含め様々な視点から障害のある子ども・若者の背景に目を向けていきたいと思います。もちろん、セクシュアリティに関する研究もOKです!</p> <p>○竹脇真悟:障害の重い子どもたちへの教育的なはたらきかけを基盤に据えて、特別支援教育の抱える課題について探求しています。子どもの困った行動の裏にある発達への願いを明らかにしていくなど子ども理解や授業実践、また母親やきょうだい児の問題、放課後や長期休みの課題、地域生活など、障害児に関わる社会的課題について、学生の問題意識に沿いながら進めていきたいと思っています。</p> <p>○中嶋理香:乳児期から小学生、特に小学校低学年の子どもたちの発達支援を行っています。子どもたちが少しずつ社会を広げる中でそれぞれの困難さがあります。その困難さを一緒に考えること、それが、子どものニーズでもあるでしょう。子どものニーズがどこにあるのか、一緒に考えましょう。</p> <p>○坂野愛実:子どもたちが抱える困難は多様であり、子どもの声や思いに耳を傾け、応答できる教育環境を整備する必要があります。そこで、子どもの成長発達と自己実現を支えるために蓄積されてきた法理念への理解を深めること、その上で、現行の制度・政策および法現象としての社会の姿から問題・課題を見つけ、子どもの権利保障という観点より、教育環境の改善などをはかるための方策を考えていく、また、その視点を身に付けることを「非行少年」をキーワードに行っていきたいと考えています!(^^)!</p>			